

9月1日は防災の日

8月30日～9月5日は防災週間です

災害発生時の被害の軽減を図るには、普段からの備えを十分にするとともに、災害時に迅速かつ適切な防災活動を行うことが大切です。今回は地震発生時の行動パターンを紹介します。

問い合わせ 総務課防災係（内線224）

地震発生

落ち着いて、自分の身を守る
火の始末は素早く
ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する

山・がけ崩れの危険が予想される地域は、
すぐに避難

1～2分

火元を確認、出火していたら初期消火
家族の安全を確認
ガラスの破片などでけがをしないように、靴をはく
非常持出品を手近に用意する

3分

隣近所の安全を確認
余震に注意

5分

ラジオなどで情報を確認
電話はなるべく使わない
家屋倒壊などの恐れがあれば避難する

5～10分

学校などへ子どもを迎えに行く（自宅を離れるときは、行き先を書いたメモを目立つ場所に残す）
ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを切る

10分～数時間

消火・救出活動

～3日くらい

生活必需品は自宅の備蓄でまかなう
災害情報、被害情報の収集
壊れた家には入らない
引き続き余震を警戒する

避難生活では

自主防災組織(*)を中心に行動する
助け合いの心で集団生活のルールを守る

地震発生！そのときどうする？

※自主防災組織（自警団）とは

町内会単位などで住民たちが自発的につくる防災のための組織です。平常時には防災知識の普及や啓発、地域内の安全や防災用資器材の整備点検、防災訓練などを行います。災害発生時には、情報を収集して住民に迅速に伝え、初期消火活動、被災者の救出や避難誘導、避難所の運営などを担います。

規模の大きな災害のときは、交通網の寸断や通信手段の混乱などで、消防や警察などの救援がすぐには得られない可能性があります。「自分たちのまちは自分たちで守る」という心構えで、自主防災組織（自警団）に積極的に参加し、災害に強い地域をつくりましょう。

緊急地震速報が出されたら

周囲の状況に応じて慌てず
まず身の安全を確保する！

緊急地震速報は、地震の発生直後に震度や到達時刻を予測し、テレビやラジオを通じていち早くお知らせするものです。
緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが来るまでの時間は、数秒か数10秒しかありません。その短い間に、自分の身を守ることを最優先に行動しましょう。

家庭では
頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れましょう。
速やかに火の始末、コンセントやガスの元栓の処置をしましょう。

人が大勢いる施設では

係員の指示に従って落ち着いて行動し、慌てて出口に走り出さないようにしましょう。

鉄道・バス乗車中は

つり革・手すりにしっかりとつかまり、乗務員の指示に従って落ち着いた行動を取りましょう。

野外(街)では

ブロック塀の倒壊、看板や割れたガラスの落下などに注意し、ビルのそばから離れましょう。

自動車運転中は

慌ててブレーキをかけてはいけません。ハザードランプを点灯し、揺れを感じたらゆっくり停止します。

エレベーターでは

最寄の階で停止させ、すぐに降ります。
閉じ込められたときは無理に脱出しようとせず、非常ボタンやインターホンで連絡を取り、救出を待ちましょう。

日頃から非常持出品を常備しよう

●最低限そろえておきたい物



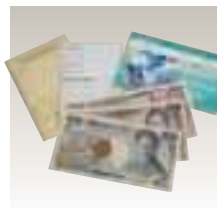
懐中電灯



携帯ラジオ



非常食・水



貴重品



救急医療品

●震災後に備えるために

食品

缶詰やレトルト食品、栄養補助食品、粉ミルクなど。非常食3日分を含む数日分を最低限備蓄しておくように。

水

飲料水は大人1人当たり、1日3ℓが目安。少なくとも3日分の用意を。

燃料・その他

卓上コンロや固形燃料、予備のガスボンベのほか、毛布、寝袋、洗面用具、ラップ、使い捨てカイロ、下着類、生理用品、紙おむつ、ろうそく、ライター、電池、マスク、トイレットペーパーなどがあると便利。

8月28日(日)
平成23年度
土岐市総合防災訓練

泉町の全自主防災組織を対象に、自主防災組織が担う災害時の初動対応訓練を重点的に、関係防災機関などと連携して訓練を実施します。

- 【訓練想定】 午前7時30分に直下型地震が発生、土岐市で「震度6弱」を観測。
①防災行政無線により周知放送を行い、地震発生(訓練)を呼び掛けます。
②午前8時から泉中学校グラウンド・体育館で訓練を開始します。